

土佐備長炭の原木確保に向けたウバメガシ実生苗による更新の取組

四国森林管理局 安芸森林管理署 地域林政調整官 柳園 和男

1 課題を取り上げた背景

高知県東部の室戸市と東洋町では、土佐備長炭の生産が盛んに行われ、意欲的に活動する企業等も誕生し、市場規模も年々拡大しており、自治体も地場産業として全面的支援を行うところとなりました。それまでは、製炭業者は地元の共有林等から自生しているウバメガシ等の広葉樹林を山ごと買取り生産を行ってきましたが、生産量が拡大してくるにつれ地元産材だけでは原木の確保が困難となり、高知県西部や県外の産地から原木を調達しなければならない状況になっています。

室戸市、東洋町の土佐備長炭生産者が原木（主にウバメガシ）の確保に苦慮していると聞いた地元森林官より「管内の主伐跡地にウバメガシを植栽してはどうか」との提案があり、安芸署内で検討した結果、地元でウバメガシの植林ができる施業方法の確立を目指し「ウバメガシ植栽プロジェクト」を立ち上げ、早速、国有林内にあるウバメガシ林から種子（どんぐり。以下種子という。）を採取し、署の玄関前の日当たりのよい場所に種子をポリポットに植付け、苗を作る試みから実施することになりました。

2 取組の経過

平成28年10月より種子の採取を開始し、水に浮かぶ種子は取り除き、水に沈む種子のみを選別して植栽、落ち葉かぶせ、遮光ネットの設置、夏場の草取り、秋には根切り作業、大型ポリポットへの植替作業を実施、水やりなどは日常業務の合間に交代で実施してきました。

この作業を3年間実施することにより、1～3年生苗、約2,000本の苗木を育成することが出来ました（写真1）。



（写真1：1年生苗）

3 実行結果

職員実行により種子から育成したウバメガシ苗木を用いて、令和2年2月安芸郡東洋町の別役南山国有林1173林班い1小班において、地元市町長を含めた多数の地元有志・四国森林管理局長を含めた多数の職員により、盛大に植樹祭を開催しました（写真2）。



（写真2：ウバメガシ植樹祭の様子）

植樹祭会場内に苗木試験地を区域設定し、1年生28本、2年生苗23本、3年生苗24本を植栽し、苗木の年数別と植栽時に施肥の有・無別で、苗木の活着状況を観察していくことにしました。

4 考察

1年生苗は種子を蒔いて芽が出てから11ヶ月と短く、苗長も10cmに満たないものもあり、残念ながら1本だけ枯死しました。

2年生苗、3年生苗は順調に生育しており、施肥の有無による顕著な違いは見られませんでした。

この結果を受け、採取種子による実生の場合、1年生苗でも活着はしますが、後の成長を考慮すると、2年生以上の方が成長もよく、確実な成林が期待できることがわかりました。